

**NPO・草の根活動****大阪市西区手話サークル「ながほり」  
～手話でコミュニケーション豊かな地域づくりを～**

コミュニケーションをコンピューターシステムが代行できる今の時代にこそ、お互いに顔をあわせて話す「手話」を通じた交流を大切にしたいと私たちは考えています。

「ながほり」は今年で設立20年を迎える手話サークルで、現在は昼の部・夜の部あわせて48名の会員がいます。週に一度の例会では、手話で聴覚障害者との交流を深め、さまざまな問題について共に学びあい、活動につながっています。ボーリング大会やクリスマス会、お花見、納涼会、ハイキング、新年会といった行事の他に、秋の交通安全週間では手話付きの交通安全講習会を開催しています。

また、「ろう高齢者が安心して生活できる場づくり」「ろう重複障害者が孤立しないで働ける作業所づくり」の資金のために、ハッピー着用での街頭募金や、ビーズや毛糸の手作り品を作ってバザーも開いています。

現在は、地域行事への団体参加、ボランティア講座での手話勉強会や区内手話通訳者の派遣などを通じて、地域でのネットワークづくりと手話の普及に取り組んでいます。

聞こえない人が情報やコミュニケーションからとり残されることのない社会を目指して、これからも「視野はグローバルに、実践はローカルに」というスタンスで、広くアンテナをはりめぐらせながら、今、ここにある個別課題に対応できるサークル活動を続けて行くつもりです。



2005年9月21日 秋の交通安全講習会

**交野市ボランティアグループ連絡会  
障害者との交流「ほほえみ」**

活動の始まりは、1977（昭和52）年、義務教育は終えたが、その後の行き場のなかった、障害のある方の友達作りを目的に始めました。

当時、体の不自由な方は、授産施設など近しくなく、義務教育を終えられると、ただ家で家族と一日を過ごすだけ、という生活になるのが普通のことでした。そのような中で、たった週1回のことですが、彼らが社会とのつながりをもてる小さなドアであればと活動をはじめました。

地域の施設を借り、お母さんが車椅子を押して通われ、その後何人かの方が加わり、それぞれができることをしていこうということで、文字の練習、編物、貼り絵、本の朗読等、素人集団が思いつきでいろいろなことをして過ごしました。その活動が今「ほほえみ」として続いています。

開設当時からずっと20年来来てくれていたメンバーの一人が2年ほど前からデイサービスを利用するようになってここに来られなくなり、淋しくなったと思っていたところへ新しい仲間が加わり、また賑やかになりました。メンバーの出入りはあるものの、いつも5～6人くらいの方が利用しています。ボランティアは素人ばかりで専門家はいません。障害のある人との交流が目的ですから、特別なことは何もしていません。おしゃべり、手仕事、トランプ遊び、気候のいいときは、近くを散歩し、軽い体操でからだをほぐしたりします。年中行事として、七夕祭りの飾り付け作り、クリスマス会、メンバーの誕生会などを行っています。ボランティアしているというより、一緒に遊ばせていただいているというのが実感です。

こんなことでいいのかなと悩みながらも、利用者の、「ここが好き」という声に励まされて、ただただ楽しく一日を過ごしていこうと、毎週ボランティアセンターに通ってきています。

